

「領域：人間関係」についての保育とは？（２） ～保育学生の指導案づくりから～

What is Childcare Related to the Area of "Human Relationships" ? (2) — From the View-point of Students' Lesson Plan Practices —

権藤 眞織

要旨

本研究では、権藤（2017）で行った「領域：人間関係」に関する力を育てるために経験すべきだと学生が考えることについての分析に引き続き、授業「保育内容（人間関係）」において、学生が取り組んだ学習内容を分析し、学生が捉えている「領域：人間関係」についての理解内容を検討した。まだ実習経験がない下級学年ではあるが、学生なりに、ねらいを持ち、活動案を検討した様子がみられた。しかし、一方で、「領域：人間関係」のねらい3項目のうち、ねらいの第二項目が突出して出現頻度が高く、それに伴って、体験内容（活動や遊び）も、ふれあい遊びや、道具や教材の貸し借りを想定した造形活動や造形遊びの頻度が高く、本領域で育む事が大切な社会生活において必要な自立的な行動（生活習慣、対人マナーや対人関係）や社会で求められる判断力（道徳性、善悪の判断、社会正義の芽生え）についてはあまり言及されなかった。今後、学生の抱くイメージや理解を確認して認めつつ、学生の理解を出発点にして過不足を補えるような教材開発に取り組みたい。

キーワード：領域「人間関係」 学生の指導案 カテゴリー

I. はじめに

2017年、保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定子ども園の教育・保育要領が改訂されたことに伴い、実習や科目など、保育者養成教育も大きく改変されてきた。しかし、時代は変わっても、子どもの本質、保育の本質については、普遍的で変わらない部分もあるので、これほどまでに変更を重ねる必要があるのかという議論も耳にする。一方で、子どもの人権、発達や発達障害、育むべき力など、新しい捉え方や考え方、保育や教育の目標も、世界の潮流にあわせて導入されている。近年では、特に、「領域：人間関係」に関するトピックとしては「非認知能力」の育成などが求められている（無藤，2016）。

また、今回の改訂では、幼児教育・保育においては、従来から「心情」「意欲」「態度」も重要な観点ではあるが、資質や能力の育成が提言され、「幼児期のおわりまでに育てほしい10の姿」の観点も導入された。保育の初学者にとっては、保育所やこども園と、幼稚園では異なるものの、0歳から6歳のこどもの発達の理解にはじまり、養護と教育の一体化、五領域および保育のねらいと内容、心情・意欲・態度、3つの資質と能力、そして、幼児期のおわりまでに育てほしい10の姿などの保育の基本となる事柄を、指針や要領を読んで理解するのは大変に難解な学習になると言える。さらに、実習場面では、その指し示す概念を掴んで、子どもたちとかかわりながら保育者の実践から保育を読み取ることも求められるため、これらの知識を実践的に活用できるように学びを深めておく必要がある。養成校教員として、教授する事柄は

神戸親和女子大学発達教育学部福祉臨床学科 講師

どんどん増えていくが、果たして、学び手である学生たちは、どのように受け止め、理解しているのだろうか。

そこで、本研究では、権藤（2017）に引き続き、授業時の学生の記述を分析し、学生の理解している内容を把握・検討することを試みる。

II. 目的

保育内容（人間関係）の授業において使用したワークシート『「領域：人間関係」の「内容」が体験できる活動』の記述内容から、「領域：人間関係」をどのように理解して、何を保育しようとしているのか、学生の理解やイメージを分析する。

III. 方法

対象者：保育者養成校である S 大学保育士課程コース履修中の 2 回生 80 名（実習経験はなし）。

調査日時：201X 年 6 月—7 月実施。授業の中で、『「領域：人間関係」で育む力を刺激したり、体験できる保育指導案』を作成するために、領域：人間関係のねらい（3 項目）と内容（14 項目）を見ながら、自分のアイデアを出すというワークシート学習を行った（図 1）。ワークシート記入後、グループでワークシートを見せ合い、意見交換を行った。また、本ワークを行う前に、以下の学習を行っていた。

- ① 「領域：人間関係」を保育するとはどういうことなのかについてグループディスカッションを行った。その際、半構造化インタビュー形式のワークシート（資料 1）を各自回答したのち、話し合いに移行。
- ② 「領域：人間関係」の内容 14 項目を現在の自分の生活に当てはめて考えてみるワーク（資料 2）と、グループディスカッション。
- ③ 保育場面の VTR 視聴（「わすれてできる？～友だちと先生の暮らしづくり～（5 歳児）21 分／1997（平成 9 年）年：岩波映像株式会社」し、子どもの姿、教師の援助などグループディスカッション（資料 3）。主な登場人物の姿と体験内容の分析（資料 4、5）。また、HomeWork（資料 6）として、自分が該当クラスの担任であったら子どもたちをどう理解して、援助するかを考察。その後、VTR 視聴部分をヒントに、実習日誌の作成（資料 7）を行った。

本論では、個人ワーク（図 1）として実施した回答内容を分析対象として用いた。

分析方法：学生が記載した記述内容を意味的類似性により KJ 法を用いて分類し、学生の回答傾向を検討した。

保育内容の研究（人間関係）：ワーク（ 月 日）

◇ 領域：人間関係の「内容」が体験できる活動のいろいろ ～子ども時代の思い出なども振り返ったりして・・・◇

□月曜 □金曜（ ）限 学籍番号（ ）氏名（ ）

◆あなたのアイディア その1◆ ◆あなたのアイディア その2◆

人間関係
他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。

ねらい
①保育所生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
②身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感を持つ。
③社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

内容
①安心できる保育士等との関係の下で、身近な大人や友達に関心を持ち、模倣して遊んだり、親しみを持って自ら関わろうとする。
②保育士等や友達との安定した関係の中で、共に過ごすことの喜びを味わう。
③自分で考え、自分で行動する。
④自分でできることは自分でする。
⑤友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。
⑥自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
⑦友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。
⑧友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見いだし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。
⑨良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する。
⑩身近な友達との関わりを深めるとともに、異年齢の友達など、様々な友達と関わり、思いやりや親しみを持つ。
⑪友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気づき、守ろうとする。
⑫共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。
⑬高齢者を始め地域の人々など自分の生活に関係の深い、いろいろな人に親しみを持つ。
⑭外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つ。

①活動名〔 〕
それはどんな活動？

②活動のやり方・進め方

③「ねらい」 □心・□意・□態

④「内容」 どの項目がどんなふうに体験できる？

⑤保育上の配慮 どんなこと気をつけたい？
どんな声かけするといひかな？

①活動名〔 〕
それはどんな活動？

②活動のやり方・進め方

③「ねらい」 □心・□意・□態

④「内容」 どの項目がどんなふうに体験できる？

⑤保育上の配慮 どんなこと気をつけたい？
どんな声かけするといひかな？

図1 本研究で使用したワークシート（例）

IV. 結果

(1) 全体的結果

学生から回答のあった活動案は、総計：424件となった。学生1名あたり、2件から5件の案を回答していた。年齢別には、5歳：148件、4歳：136件、3歳：53件、また、乳児クラスの案も記載しており、2歳：23件、1歳：18件の活動案があった。異年齢保育についても言及され、46件であった（Table 1 左）。

その活動によって「領域：人間関係」のどのねらいが実現されるのかについて、ねらい①保育所生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう（心情）は、115件（5歳：42件、4歳：42件、3歳：11件、2歳：10件、1歳：2件、異年齢：8件）であった。ねらい②身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感を持つ（意欲）は、214件（5歳：74件、4歳：56件、3歳：28件、2歳：11件、1歳：16件、異年齢：29件）で、ねらい③社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける（態度）は、96件（5歳：36件、4歳：28件、3歳：16件、2歳：6件、1歳：0件、異年齢：10件）であった（Table 1 右）。

Table 1 学生の考える「領域：人間関係」に関する活動についての回答頻度

年齢	件数	ねらい			
		1(心情)	2(意欲)	3(態度)	記載なし
5	148	42	74	36	14
4	136	42	56	28	13
3	53	11	28	16	4
2	23	10	11	6	0
1	18	2	16	0	0
異年齢	46	8	29	10	4
計	424	115	214	96	35

1、2歳の低年齢児や年中（3歳児）の活動よりも、年長児用の活動頻度が多いことから、学生にとっては年齢の高い子どもを対象とした活動の方がイメージしやすいと考えられる。また、ねらいのイメージしやすさも、項目によって出現頻度が異なり、ねらいの②（意欲）がねらい①（心情）やねらい③（態度）よりも多く、約2倍の出現頻度となった。

また、「領域：人間関係」のどの項目が体験される活動として考えたのかについて、項目①安心できる保育士等との関係の下で、身近な大人や友達に関心を持ち、模倣して遊んだり、親しみを持って自ら関わろうとする：79件、項目②保育士等や友達との安定した関係の中で、共に過ごすことの喜びを味わう：75件、項目③自分で考え、自分で行動する：81件、項目④自分でできることは自分でする：43件、項目⑤友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う：84件、項目⑥自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く：39件、項目⑦友達によさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう：104件、項目⑧友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見だし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ：109件、項目⑨良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する：13件、項目⑩身近な友達との関わりを深めるとともに、異年齢の友達など、様々な友達と関わり、思いやりや親しみを持つ：51件、項目⑪友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気づき、守ろうとする：65件、項目⑫共同の遊具や用具を大切に、みんなで使う：61件、項目⑬高齢者を始め地域の人々など自分の生活に関係の深い、いろいろな人に親しみを持つ：31件、項目⑭外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つ：15件、他に記載されていない例が7件あった（Table 2-a）。

ねらいと同様、項目によって出現頻度が大きく異なった。特に突出して多く取り上げられたのは、⑦友達によさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう：104件、項目⑧友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見だし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ：109件であったが、さらに、これらの体験は、これもねらいと同様、年長児での活動で顕著であった。次に多く取り上げられた内容の項目は、項目①安心できる保育士等との関係の下で、身近な大人や友達に関心を持ち、模倣して遊んだり、親しみを持って自ら関わろうとする：79件、項目②保育士等や友達との安定した関係の中で、共に過ごすことの喜びを味わう：75件であったが、これらも年長児のほうが頻度が多かったが年齢ごとに相対出現頻度でみると（Table 2-b）、年長児では項目⑦、⑧の出現率が高くはあるが、他の項目もある程度の出現率

Table 2-a 学生の考える「領域：人間関係」に関する活動での体験項目（内容）の頻度（件数）

年 齢	内 容															
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	記載なし	
幼児	5	19	23	30	18	30	24	42	49	5	12	23	21	11	14	0
	4	18	16	31	17	32	11	42	38	4	5	31	20	8	1	2
	3	12	12	8	5	13	1	10	11	3	4	5	11	5	0	1
乳児	2	10	11	4	1	2	0	3	1	0	2	2	3	0	0	2
	1	9	8	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2
異年齢		11	5	8	2	7	2	5	10	1	28	4	6	7	0	0
計		79	75	81	43	84	39	104	109	13	51	65	61	31	15	7

Table 2-b 学生の考える「領域：人間関係」に関する活動での体験項目（内容）の頻度（相対頻度）

年 齢	内 容															
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	記載なし	
幼児	5	5.9	7.2	9.3	5.6	9.3	7.5	13.1	15.3	1.6	3.7	7.2	6.5	3.4	4.4	0.0
	4	6.5	5.8	11.2	6.2	11.6	4.0	15.2	13.8	1.4	1.8	11.2	7.2	2.9	0.4	0.7
	3	11.9	11.9	7.9	5.0	12.9	1.0	9.9	10.9	3.0	4.0	5.0	10.9	5.0	0.0	1.0
乳児	2	24.4	26.8	9.8	2.4	4.9	0.0	7.3	2.4	0.0	4.9	4.9	7.3	0.0	0.0	4.9
	1	40.9	36.4	0.0	0.0	0.0	4.5	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1
異年齢		11.5	5.2	8.3	2.1	7.3	2.1	5.2	10.4	1.0	29.2	4.2	6.3	7.3	0.0	0.0
計		9.2	8.8	9.5	5.0	9.8	4.6	12.1	12.7	1.5	6.0	7.6	7.1	3.6	1.8	0.8

が見られたが、乳児では、項目①と②が突出して高く、他の項目はあまり触れられてなかった。すべての項目がどの年齢の子どもでも体験できる内容ではあるが、発達段階に対応してイメージのしやすさ、取り組みやすさに違いがあることが考えられるが、学生も発達を考慮した活動を立案しているといえる。自我が芽生え、少しずつ自立が始まる2歳児では、項目③自分で考え、自分で行動するが取り上げられているが（9.8%）、1歳児では取り上げられていない。

（2）活動内容による分類

記述された424件の遊びや活動は、活動の種類（プログラム名）としては、85種類がカウントされた。それらを、保育者（学生）の意図やこどもの経験事項を基準に、KJ法によってカテゴリにまとめて、分類した（Table 3）。

すべての活動・遊びに、コミュニケーションの要素が含まれており、主なカテゴリとしては、身体接触のある遊び（①ふれあい遊び）、ものの貸し借りなどの交流がある活動や遊び（②造形活動・造形遊び、④道具を使った遊び）クラスの子ども同士以外のさまざまな人と交流する活動や遊び（③行事やイベント）、集団で体を使ったり、言葉をつかたりしてやり取りを行

Table 3 学生の考える「領域：人間関係」に関する活動の分類と例

カテゴリ	件数	相対頻度 (%)	おもな活動事例
1 ふれあい遊び	66	15.6	大根抜き・じゃんけん列車・友達作りゲームなど
2 造形遊び・造形活動	63	14.9	絵画・制作・工作・新聞遊び・粘土
3 行事・イベント	60	14.2	生活発表会・運動会・お誕生日会・散歩・施設訪問・遠足
4 道具を使った遊び	49	11.6	大型遊具・いすとりゲームやおもちゃ、パズル・積み木
5 群れ遊び	36	8.5	鬼ごっこ・バナナ鬼・かくれんぼ
6 ごっこ遊び	33	7.8	お店屋さんごっこ・忍者ごっこ・探検ごっこ・ままごと
7 模倣遊び・表現遊び	31	7.3	まねっこ遊び・船長さんのいうとおり・リズム・ダンス
8 競技・競争遊び	28	6.6	かけっこ・リレー・ボールリレー
9 ことば遊び	19	4.5	お手紙・メッセージ作り・絵本読み聞かせ
10 自由遊び	8	1.9	屋外での自由遊び・室内での遊び・けんかなど
11 異年齢保育	3	0.7	年長児と乳児で食事、散歩など
12 生活・生活習慣	28	6.6	朝の会、帰りの会、昼食・大掃除・歯磨き・係活動など
計	424	100.0	

う遊び（⑤群れ遊び、⑥ごっこあそび、⑦模倣遊び・表現遊び、⑨言葉遊び）、相手と競い合う遊び（⑧競技・競争遊び）にまとまった。それぞれの出現頻度は、多いものから順に、ふれあい遊び：66件、造形活動・造形遊び：63件、行事やイベント：60件、道具を使った遊び：49件、群れ遊び：36件、ごっこ遊び：33件、模倣遊び・表現遊び：31件、競技・競争遊び：28件、生活・生活習慣：28件、ことば遊び：19件、自由遊び：8件、異年齢保育：3件となった（Table 3）。

次に、各カテゴリー毎に、ねらいの出現頻度を比較した（Table 4）。全体的に、ねらいの2の頻度が多い傾向は同様であるが、活動によっては、ねらい1の心情の頻度が高いもの（造形遊び30件）やねらいの3が多い（ごっこ遊び15件、生活習慣22件）ものもあった。

また、体験できる内容項目の頻度も示した（Table 5）。活動によって、体験項目の頻度の違いが見られ、活動に特化したこどもの体験を意識している事がわかる。

Table 4 学生の考える「領域：人間関係」に関する活動の分類と頻度およびねらい別の頻度

カテゴリ	件数	ね ら い				
		1 (心情)	2 (意欲)	3 (態度)	記載なし	小計
1 ふれあい遊び	66	10	48	8	8	74
2 造形遊び・造形活動	63	30	19	11	3	63
3 行事・イベント	60	12	30	18	6	66
4 道具を使った遊び	49	16	25	6	5	52
5 群れ遊び	36	10	24	3	3	40
6 ごっこ遊び	33	9	6	15	5	35
7 模倣遊び・表現遊び	31	11	19	2	2	34
8 競技・競争遊び	28	8	15	5	2	30
9 ことば遊び	19	1	15	3	0	19
10 自由遊び	8	1	6	2	0	9
11 異年齢保育	3	1	2	1	0	4
12 生活・生活習慣	28	6	5	22	1	34
計	424	115	214	96	35	

Table 5 学生の考える「領域：人間関係」に関する活動の分類別内容項目の頻度

カテゴリ	件数	ね ら い														記載なし
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	
1 ふれあい遊び	66	17	21	7	0	23	6	19	15	1	7	9	3	0	0	6
2 造形遊び・造形活動	63	21	9	9	2	5	2	11	5	0	1	3	0	0	0	0
3 行事・イベント	60	11	1	12	2	2	2	6	3	1	1	6	6	0	0	0
4 道具を使った遊び	49	8	6	18	17	7	4	23	23	1	5	3	21	0	0	0
5 群れ遊び	36	3	4	2	4	3	5	4	0	0	3	1	1	2	0	0
6 ごっこ遊び	33	5	3	8	1	13	9	15	22	0	4	12	13	0	0	0
7 模倣遊び・表現遊び	31	4	9	9	2	15	2	18	15	4	4	17	1	0	0	0
8 競技・競争遊び	28	2	4	2	4	9	2	4	13	1	8	4	5	1	0	0
9 ことば遊び	19	5	5	5	1	6	4	3	10	4	12	3	4	27	15	0
10 自由遊び	8	1	0	3	0	0	1	1	0	0	1	4	5	0	0	0
11 異年齢保育	3	0	1	0	0	0	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0
12 生活・生活習慣	28	2	12	6	10	1	1	0	2	1	2	3	2	1	0	1
計	424	79	75	81	43	84	39	104	109	13	51	65	61	31	15	7

次に、活動内容を年齢・発達の観点から分析した（図2）。このグラフから、活動によって、各年齢の出現率が異なることから、遊びの種類によって年齢に適した活動を考えている事がわかる。鬼ごっこなどの群れ遊びは、年中以降より一層活発になり、バナナ鬼ごっこ、氷鬼ごっこ、けいどろなど遊びのバリエーションも豊かになっていた。同様に、道具を使った遊び（ドッチボールやなわとび、カード遊びなど）や、造形活動、言葉遊びなども、年中、年長児の活動としての認識が高かった。一方で、まねっこ遊びなどの保育者がリードして遊ぶ模倣遊びや表現遊びは、年少児で、また、手遊びなどはどの年齢層でも見られたが、特に乳児で、保育者とのわらべ歌あそびなどのふれあい遊びが多く見られ、子どもの発達と保育者の役割を意識した活動案が作成されていた。

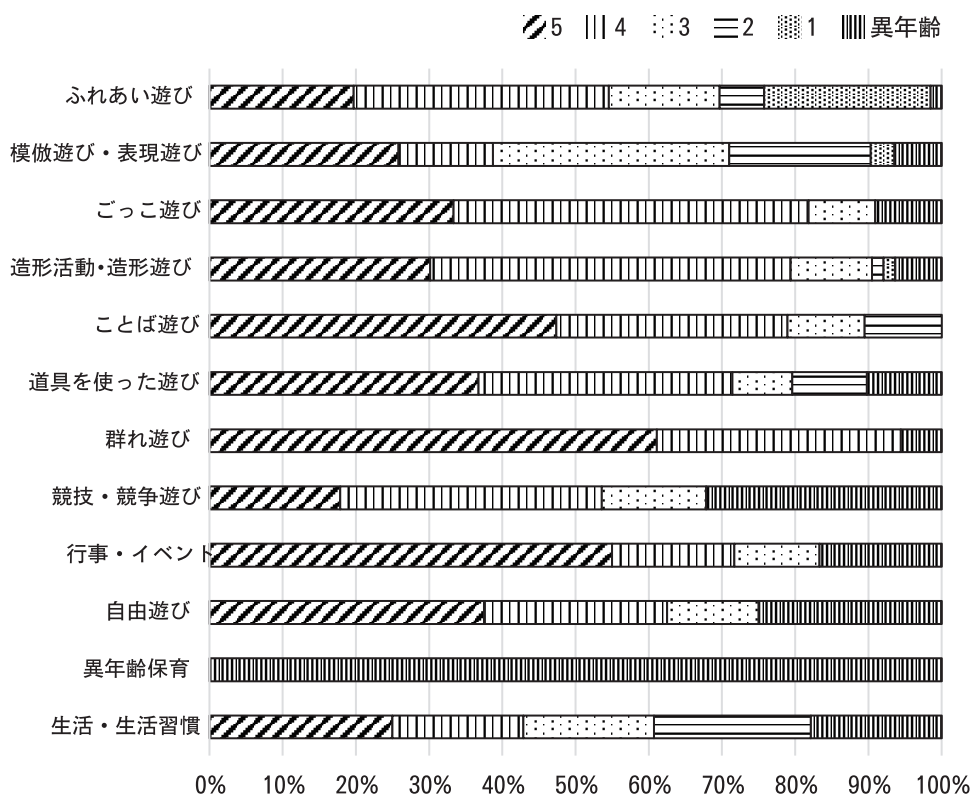


図2 活動カテゴリ別発達（年齢）毎の出現率の比較

V. 考察

「領域：人間関係」をはぐくむ活動に関する指導案づくりにおいて、学生80名から、424件の活動案が作成され（一人あたり2件から5件）、活動の種類別は85種類に及んだ。活動の種類を分類すると、さまざまなタイプのコミュニケーションに重点を置いた活動であった事がわかった。保育のねらいや内容については、ねらいの項目2番目の意欲に関するものが最も多く、偏りが見られた。同様に、内容の項目についても、活動や年齢によって出現頻度に違いが見られた。内容の項目⑦と⑧が多く取り上げられ、項目⑩、⑪、⑫、⑬、⑭は年長、年中児の活動にはみられたものの、低年齢児では出現率が低かった。また、項目①と②はどの年齢でも取り上げられていたが、低年齢児では、年長児よりも突出して割合が高くなっていた。一方、内容項目⑨は、「領域：人間関係」の大きなテーマの一つでもある「善悪の判断」や「道徳性の発達」

に関連する体験となるが、すべての年齢で一貫して出現頻度が低かった。

これらの学生の記述内容を概観すると、2回生になって保育の専門科目を学び始めた時期で、まだ、実習体験もなかったが、各学生、自分なりの視点で、こどもたちが活動や遊びを体験する中で、どのように育ててほしいか、どのような配慮が必要なのかと、試行錯誤しながら立案した様子を読み取れた。本学習課題に取り組む以前に、「領域：人間関係」のねらいと内容について多面的に掘り下げ、短時間ではあるが保育現場のVTRも視聴したり、教師としての自分自身のかかわりについても模擬的に考えたり、さまざまな学習を行ったが、そのことを指導案作成につなげて考えている学生もおり、前年度以前に行った同様のワークシート学習を実施したケースと比較すると、文章による記述内容が多いという印象を受けた。以前は、「ねらいがよくわからない」「ねらいと内容がどういうことかわからない」ために、ねらいや内容を記載しない記述例も散見されたが、該当年度の場合は、ねらいの記載漏れは、全体の10%以下であった。まだ、一般論や教科書どおりの論点ではあるが、自分なりの保育の観点を解説しようとする姿勢が見られ、保育者を目指す意欲が感じられた。各ねらいについては、特に、ねらいの②（意欲）に関連する活動や遊びが全体の約半数を占めていたが、「領域：人間関係」＝友達との交流というイメージが、まず最初に浮かぶのだろうか、ふれあい遊びや、はさみやのり、といった教材や道具の貸し借りをを行う造形活動や造形遊びの出現頻度も高かった。今後、実習やボランティア体験などを経ていくことで、「領域：人間関係」の指し示す体験内容についてのイメージも広がり、関連する活動や遊びのレパトリーが増えることも予想されるが、実習体験後に同様の学習を行い、内容を検討することによって、各領域の体験内容についての理解の広がりや、保育現場での体験の学習効果を検証・評価できるのではないと思う。

保育内容の「領域：人間関係」が示す体験内容は、五領域の中でも、特に、幅広くこどもの日々の生活のすべての側面に関連づけが可能とされる。また、こどもの園生活を分類すると、遊びに関する部分と、生活に関する部分に大別されるが、遊びに関する活動は、325件、生活に関する活動は28件と、大変に偏った結果になった。あわせて、生活に関連の深いねらいの③「社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。」についての言及が424件中78件しか見られなかった。このことから、「領域：人間関係」の「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。」ことに関して、いわゆる日常生活上の対人関係としての「人間関係」をおもにイメージしており、一義的な対人関係や社会性としての理解に留まっていることが考えられる。個人としての自立・自律や、社会生活を送る上での社会正義、道徳観の獲得、生活習慣の獲得と自律など、いわゆる「人付き合い」以上の概念を含む「領域：人間関係」の理解を、多面的に進めていくことが必要だといえる。

しかし、遊びと生活の活動における年齢別の出現頻度を相対度数で比較してみると（図3）、遊びについては、年齢によって影響を受け、出現頻度が年齢によって大きく異なったが、生活の活動については、出現事例そのものがあまりにも少数ではあったが、遊びに比べると、年齢による出現頻度の差が見られない。このことから、生活や生活習慣に関する保育では、年齢発達にかかわらず、必要な活動として認識していると捉えることも可能ではないだろうか。

実習を経験したり、上級学年になっていくと、保育とは、こどもに遊びや教育を提供するだけではないと実感してくるようになるが、初学者のイメージとしては、運動や造形、ことばや

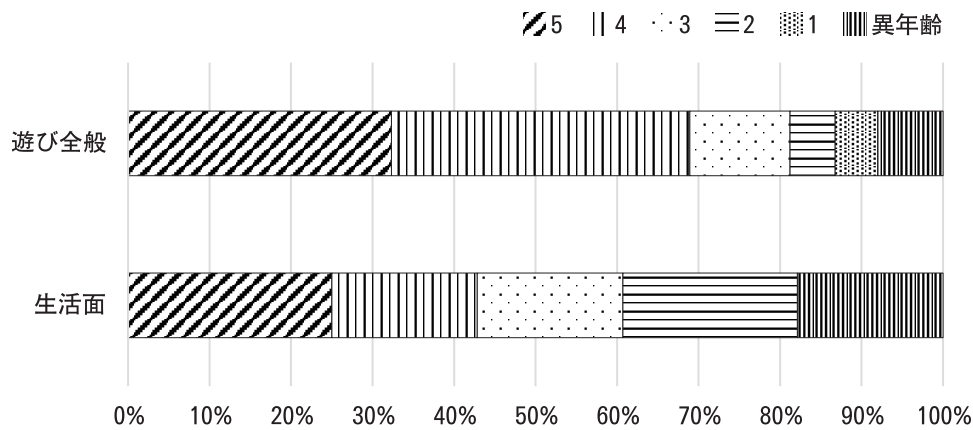


図3 遊びに関する活動と生活に関する活動の年齢による出現頻度比較

英語、音楽、季節の自然物、などさまざまな角度からの遊びや教材・体験活動を提供することこそが保育であると認識している事が読み取れる。教授する側からすると、一斉保育を提供していく事を例にあげると、教わる側も教える側もイメージや説明がしやすいとの利点もあるともいえる。また、今回の学習活動では、そもそも、「指導案を作成するためのアイデア」を検討するワークであったため、「指導案」というと、学生のイメージとしては、クラス全体で一斉保育、設定保育との理解であり、何らかの遊びや活動を考えなければならないと捉えたため、偏った可能性も否めない。先の研究（権藤，2017）では、領域人間関係で育みたい内容として、「愛着」「信頼関係」「コミュニケーション」「生活習慣」についても言及されていたので、学習場面やワークによるバイアスも考えられる。

近年、クラス全体で一斉保育の形態をとらない園も多い。一人ひとりの子どもの生活スタイルや育ち、発達にあわせて、保育内容や保育のカリキュラムを弾力的に実施している。こういった保育現場の動向にあわせて、養成校でも、例えば、保育内容の教授方法や指導案の作成方法などを修正・変更していく時期に来ているのかもしれない。一部の養成校や保育現場では、さまざまなFD研修・初任者および現職者研修などで取り組まれているが、保育の専門的なものの見方や考え方をトレーニングできる指導案作成については、さまざまな教授法があり、統一的な見解は示されているとはいえない（栗岡ら，2016；田中ら，2016；林，2018）。

初学者に対しては、一つのまとまりのある遊びや活動のほうが、指導案を立てやすく、保育の構造や考え方、観察の視点や保育のねらいと配慮などを包括的に学びやすい。しかし、こどもとの生活の中で、子どもの一挙手一投足に至るすべての園生活が、保育であり、こどもの体験となるので、学生にとってはより難解になるかもしれないが、生活面でのあらゆる場面でのこどもとのかかわりについても、指導案作りに、取り組んでいく必要が感じられた。学生Aの記述にも、「保育者は、絶対、プログラムを提供するだけが保育ではないと思うので、プログラムのない中で、こども達がどう動くのか、観察する事も大切である」（原文のまま）と、遊びや活動ではない時間の保育の重要性に言及している学生もいた。

現在、保育では、「領域」という観点で、こどもに育むべき力と体験すべき保育内容を捉えているが、互いに関連しあった五領域の体験内容や各領域によって育まれる力が指し示す概念を、初学者が理解していくのは、大変困難であるといわざるを得ない。また、保育指導案も同

様に大変難解であるが、指導案に集約された保育の構造を、わかりやすく伝え、学生の理解を高めることで、実践力の育成につなげていけるのではないかと思う。学生の目線に立ち、学生の現時点での理解を評価しながら、過不足分やより高度な保育的な視点や観点の獲得に貢献できる教材を開発していきたい。

おわりに

本論では、指導案作成への取り組みから、保育学生の理解する「領域：人間関係」の体験内容について検討した。まだ、未熟ではあるが、保育者たらんとする学生の姿勢が見られたが、一方で、領域の示す概念内容についての固定的、既成概念的なイメージを持っていることも感じられた。今回の分析結果より、子どもの園生活の遊び部分だけではなく、生活部分にも特化した内容で、「領域：人間関係」のねらいや体験内容を捉え、また、指導案作成についても、授業で遊び以外の子どもの生活を取り入れ、よりバランスのよい学習成果が得られるよう教材、学習活動に工夫を凝らす必要がある。学生の持つイメージに立脚しながらも、高度な保育専門性が獲得できるよう促すことで、保育者効力感を高めながら、専門的な考え方を身につけ、実践力を高められるのではないかと思う。

【引用文献】

- 栗岡洋美, 指導案作成の教授メソッド：段階的指導のあり方, 中京学院大学中京短期大学部研究紀要 47(1), 21-30, 2016
- 権藤真織, 領域「人間関係」についての保育とは？～保育学生の抱くイメージ：保育内容「人間関係」の授業から～, 教職課程・実習支援センター研究年報 創刊号, 265-277, 2018
- 田中敏明, 安東綾子, 保育指導案の形式と内容に関する考察：保育指導案の統一の必要性, 九州女子大学紀要 52 (2), 117-130, 2016
- 林 理恵, 短期大学保育学生の保育指導案作成に関する考察：幼稚園実習での学びに着目して, 幼年教育 WEB ジャーナル 1, 13-20, 2018
- 無藤 隆, 古賀松香 (著)「社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは」, 北大路書房, 2016
- 無藤 隆 (編著)「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」, チャイルド社, 2017

保育内容の研究 (人間関係) ワーク (月 日)

◇ め・Think & Talk ～人間関係を教えるってどういうこと？～

班 () 番号 ()

氏名 ()

イメージしてみよう！考えてみよう！

あなたが伝りたい先生は？

その先生になった時、...
人間関係について、子どもに教えたいことは？

人とかかわって行く力をつけるために、何を教えたいですか？
教えるべきですか？

その先生になった時、...
人間関係について、どうやって教えるよさと思いますか？

あちゃん(0～2歳)の子ども達に何を教えたいですか？
人間関係でどんな経験が大事かな？

どうやって、教えますか？どんな教材があるかな？

あちゃん(3～6歳)の子ども達に何を教えたいですか？
人間関係でどんな経験が大事かな？

どうやって、教えますか？どんな教材があるかな？

あちゃん(11～6年)の子ども達に何を教えたいですか？人間関係でどんな経験が大事かな？

どうやって、教えますか？教える際の配慮や工夫、どんな教材を使つか？

あちゃん(中学生)に教えるからば、...
どんなこと、教えてあげたいですか？
(たとえは、友達、母親になって...)

あちゃん(大学生)にとっては、どんな経験・体験が大事かな？
どんなこと、教えてあげたいですか？
(たとえは、友達、母親になって...)

ワークをしてみてください、気づいたこと・考えたこと

資料1 半構造化インタビュー形式のワークシート

保育内容の研究 (人間関係) ワーク (月 日)

◇ 領域・人間関係の保育実践・・・を考えると前の頭の体操♪ ～私の体験から振り返ろう～◇

学籍番号 () 氏名 ()

「内容」についても、今の自分の日常生活から考えてみよう。

先週1週間の大学生生活の中で、各項目に当てはまるようなどんなことを経験したのか振り返ろう。

② 領域：人間関係の内容たち♪⇒どんな経験や活動をしたら、これらの「内容」を経験したかな？

① 安心できる人々等との関係の下で、身近な人や友達に関心をもち、積極的に遊んだり、親しみをもちながら関わろうとする。	② 教員や先輩後輩や友達との安定した関係の中で、共に過ごすことの喜びを味わう。	③ 自分で考え、自分で行動する。
④ 自分でできることは自分でする。	⑤ 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。	⑥ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づく。
⑦ 友達とよさよさで遊ぶ、一緒に活動する楽しさを味わう。	⑧ 友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見いだし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。	⑨ 良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する。
⑩ 身近な友達との関わりを深めることにも、真実の友達なると、様々な友達と関わり、思いやりや親しみを持つ。	⑪ 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気づき、守ろうとする。	⑫ 共同の道具や用具を大切にし、みんなで使う。
⑬ 高情商を始め地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人々に親しみを持つ。	⑭ 外国人など、自分とは異なる文化を持った人々に親しみを持つ。	

資料2 領域「人間関係」の内容14項目を現在の自分の生活に当てはめて考えてみるワーク

◇ さ・ビデオからまなび♪ ～ 『わすれてできる？』を脳筋して～ ◇

□A・□B・□C 番号（ ）
氏名（ ）

今日の調子は？ (☺) (☹) (😐)
今日の出来事＆一言♪



あらすじ

子どものことについて
気づいたこと・感じたこと・考えたこと☆

全体の感想！気づいたこと・感じたこと・考えたこと☆



☆グループでの意見交換

☆話し合っ、気づいたこと・感じたこと・考えたこと♪

◇ さ・ビデオ分析 ～ 『わすれてできる？』の子ども達～ ◇

番号（ ） 氏名（ ）

ビデオの中のものたら、.. 生き生きしてましたね♪個人間関係の内容について、どのような姿が見られたでしょうか。子どもの体験をコメントしてみましょう。また、それは、どんな場面、活動でしょうか。

内容

- ① 安心できる保育士等との関係の下で、身近な人や友達に関心をもち、模倣して遊んだり、親しみを持って自ら関わろうとする。
- ② 保育士等や友達との安定した関係の中で、共に過ごすことの喜びを味わう。
- ③ 自分で考え、自分で行動する。
- ④ 自分でできることは自分でする。
- ⑤ 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- ⑥ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- ⑦ 友達よぶに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。
- ⑧ 友達と一緒に活動する中で、共通の目的を思いだし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。
- ⑨ 良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する。
- ⑩ 身近な友達との関わりを深めるとともに、異年齢の友達など、様々な友達と関わり、思いやりや親しみを持つ。
- ⑪ 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気づき、守ろうとする。
- ⑫ 共同の道具や用具を大切にし、みんなで使う。
- ⑬ 高齢者を始め地域のの方々など自分の生活に関係の深い、いろいろな人に親しみを持つ。
- ⑭ 外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つ。



保育内容の研究 (小園教師)：ワーク(月 日)
あかりちゃん・らいかちゃん・みさきちゃん編

◇ さ・ビデオ分析 ～『わすれてできる?』の子ども達～◇
あかりちゃん・らいかちゃん・みさきちゃん編

□2限・□3限・□4限 ()クラス 学籍番号()氏 名()

ビデオ中のことまたち、、、生き生きしていましたね。個体人間関係の内容について、どのような体験をしているのでしょうか。今回は、中心に記録されている3人の子どもの姿を捉えて分析してみましょう。

あかりちゃんの体録

らいかちゃんの体録

みさきちゃんの体録

☆ワークをして、気づいたこと・感じたこと・考えたこと

資料 5 主な登場人物の姿と体験内容の分析

保育内容の研究 (小園教師)：ワーク(月 日)
あかりちゃん・らいかちゃん・みさきちゃん編

◇ さ・HomeWork：私が先生だったら～『わすれてできる?』の子ども達～◇
あかりちゃん・らいかちゃん・みさきちゃん編

□2限・□3限・□4限 ()クラス 学籍番号()氏 名()

あなたが担任の先生だったら、、、ビデオ中のことまたちをどのように理解していますか。そして、どんな言葉かけをし、どのように保育したいですか。まず、3人の子ども達について考察してみましょう。

①子ども達への理解 ～その子らしい個性と育ちとちよっと気になるところ～

あかりちゃんの体録

らいかちゃんの体録

みさきちゃんの体録

②あなたが担任の先生だったら、どう関わりますか。

さ・フェイスカッショングループでの意見交換☆

☆ワーク&フェイスカッションをして、気づいたこと・感じたこと・考えたこと

資料 6 Home Work 教師の援助についてのワーク

◇実習日誌を作成してみよう♪♪ ～「わすれてできる？」の保育から～◇

クラス □A・□B・□C 学籍番号（ ）氏名（ ）

保育の記録、実習日誌のエクササイズです。現場の記録には「書くべきポイント」があります。どんなことが重要な？今まで学んだ事を活かし、そして、あなたの感性から、何を書いておきたいですか。思いをめぐらせながら、ビデオを見て、実際に書いてみよう！

Step 1：まずは、自分で書いてみる！

⇒保育者の援助が映っていないところは、「私だったら・・・」と考えて、補ってください。

Step 2：クラスメイトと読み合っこ

⇒クラスメイトのコメント欄に記載しよう。アイデアの交換ができるといいね☆

Step 3：大事な観点を見つける☆

⇒グループディスカッションをしたり、保育の図書を参考にして、ポイントを見つけよう♪♪

解説

私のアイデア：このクラスの子どもたち、、、どのように育てほしい？

私のアイデア：今日をどのようにすごしてほしい？何してほしい？

5歳児クラス 約20数名？（男子：X名 女子X名）		11月 XX日		クラスメイトの日誌 コーナー	
時間	環境構成	こどもの活動	保育者の援助や配慮	()	()
		○登園			
		○自由遊び りすこっこ			
		○贈り物を見る			
		○お帰りの会			

◇日誌に書くべきポイントってなあに？ 何を書けばよいですか？

私のアイデア

クラスメイトのアイデア

授業からのまとめ